新編金瓶梅 四集 上

馬琴作

豊國画

へ 13
3724
4

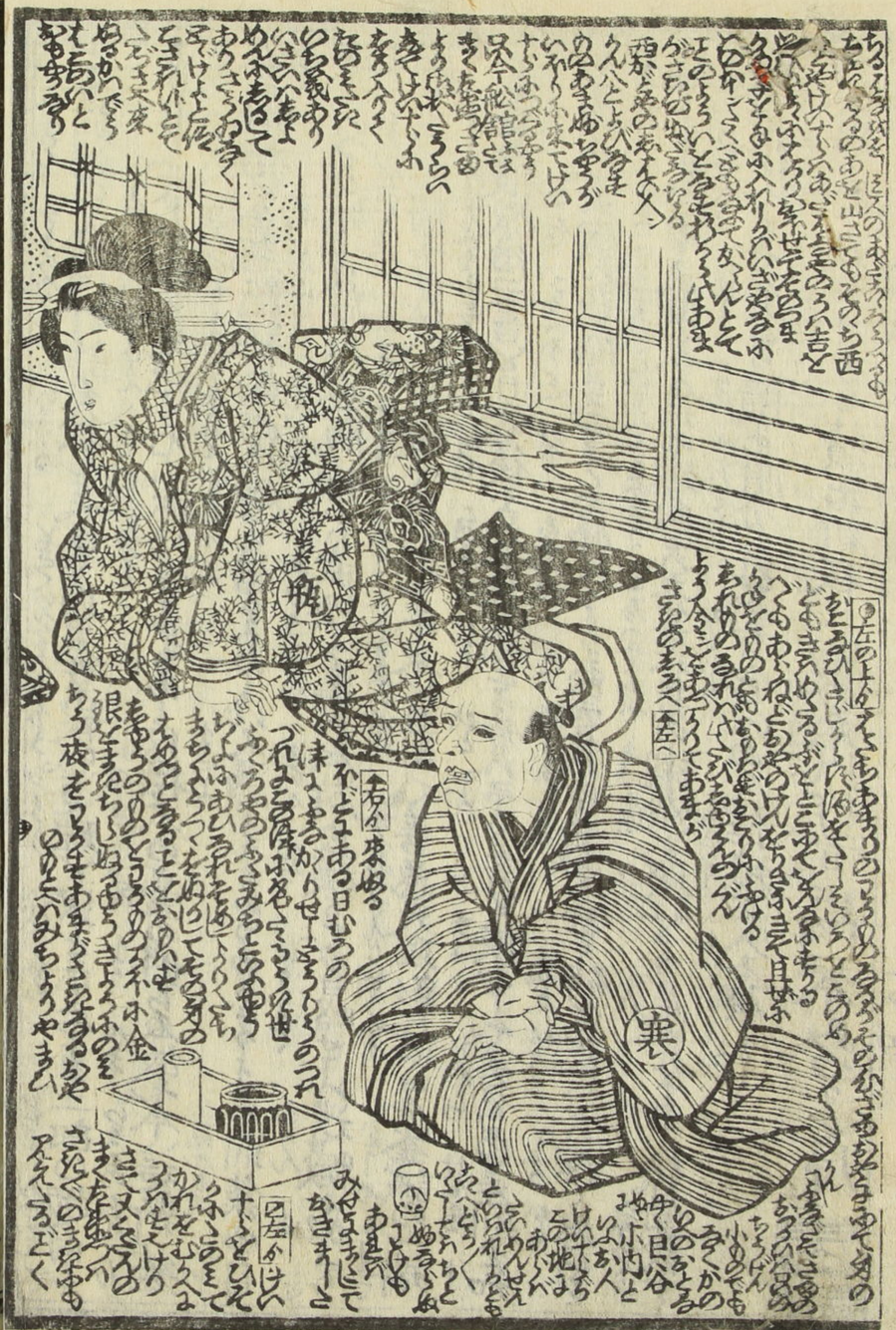
門へ13
號3724

このえんへんきんべのなん
一書あり名けて三世教隔簾花影と
る知るべし但四橋居士の序あるのみその書四十八回西門啓が身後の事
悪報の其妻その子の輪回一百廿回ゆ西門啓が一世の荒淫驕れる形勢を言と
とも蓋作者の意匠彼前傳一百回ゆ
で終りて因果応報の段尚淺くもの故ゆ後傳隔簾花影ゆ他が生前の為体
僅數行の省略にて身後の業果と詳ゆ積不善の家ゆ餘殃ある天理と丞ゆ
鮮彰よのそ勧懲と為るゆ柳件の冊子ゆ西門啓と南宮吉とその妻呉月娘を
角章よのそ勧懲と為るゆ柳件の冊子ゆ西門啓と南宮吉とその妻呉月娘を
楚雲娘とその子孝哥と慧哥とその僕玳安を泰定とも係る類ゆそのその姓
名ゆ異なれどもその人ゆ相同じ一帙都て八冊あり今此間ゆ稀なる者尤珍書とのみべし

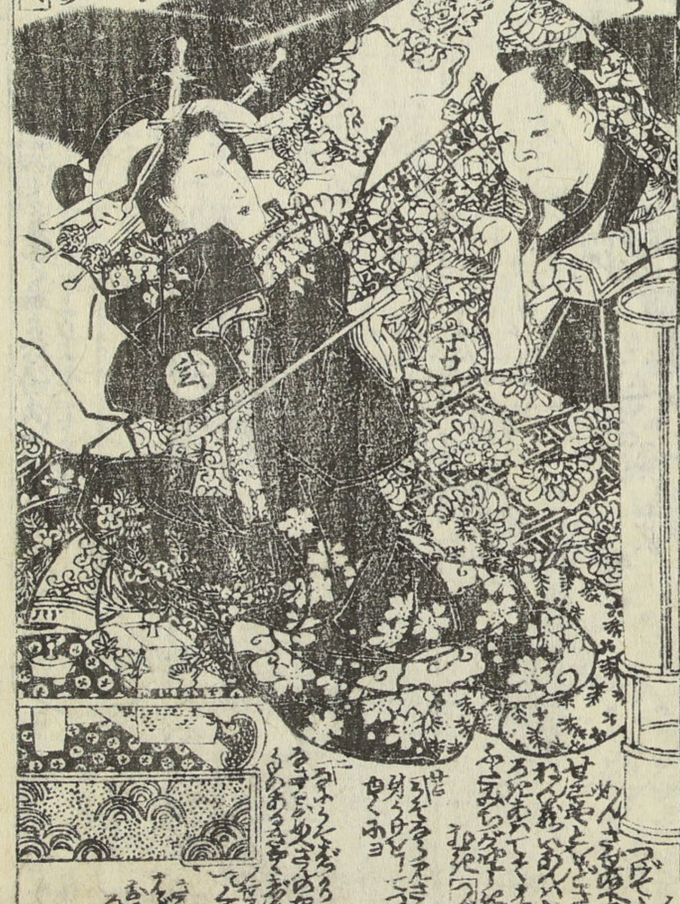
圖

ぶも前傳ゆ比況淫奸詐を蔵んとそ專因果業報ゆ道理と宗と示せるそ一部ゆ趣向そ
ありふぐ華やかな支絶て死く赤巧ふまもあらぐ又漏ぐざるゆもあらぐ接木ゆ臺ゆ好ゝ故と今這新編
金瓶梅ゆ金瓶梅影両傳ゆ趣よ漏ざるよう前集ゆ自
叙ゆごとく旦原傳ゆ金瓶梅ゆ武松ゆ事ゆ水滸ゆ譲りそ省略せゆ迷惑ゆ欲ふ
ゆ因て為這冊子ゆ武松ゆ擬ふ武二郎ゆ本末と具ゆて善悪天理彰然さ鑒誡ゆ一端
とも世ゆ彼原傳と書と見て後ゆ是書と閲ふ者ハ予ゆ言と俟ずそ其ゆ差別と知
るもあん去歳ゆ五度庵支ゆヨりて仲冬よりそゆ四集ゆ為ゆふぐ研と攻ゆ深く思ひを
旋ふまも追ゆふ況本集ゆ趣向ゆ五集六集ゆ襯深ゆ繋れるも是ふまもあれ尚幾十
巻ゆ後々まで閲まも隨よ解分られそ看官ゆよく佳境ゆ入る歟ー

保七年春正月吉日續出新板　物の本氏作者　馬琴みちとし序ス


寒

潮

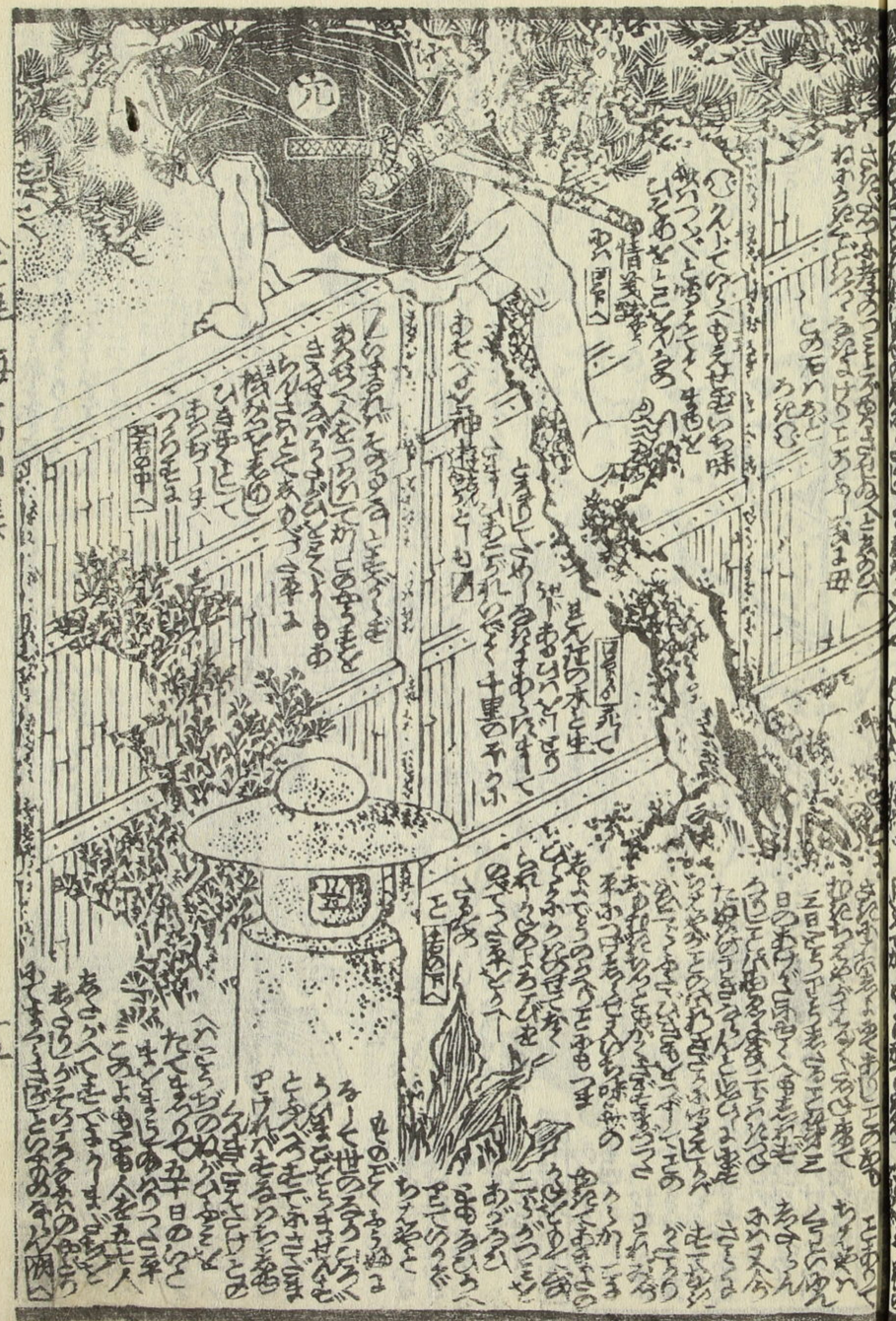


九
西
とくむら
とびの
あんどん
とそ
ふとんの
あんどん

式
啓
ちゃのこ
ちゃのこ

千
石

松
苔
衿



九
念

廿
卅
卌
完

実

九
苦

念
意
九
宿
左の上の

前
甘

新編金瓶梅十集

曲亭馬琴作
一陽齋豊國画

女郎花五色石葉

初編 曲亭馬琴作
四冊 一陽齋豊國画

児雷也豪傑譚七篇

美圖垣笑顔作
一陽齋豊國画

菊花壇養種

初篇全一冊

菊の花の民流まき

國貞画

馬琴作

家傳神女湯 一包代百刈
精製奇應丸 大包代三百文 中包代二百文 小包代一百文
熊胆黒丸子 一包代九十六文
婦人子宝の妙薬 一包六十文 一包三十二文
製薬本家 神田明神下 滝澤氏

金瓶梅

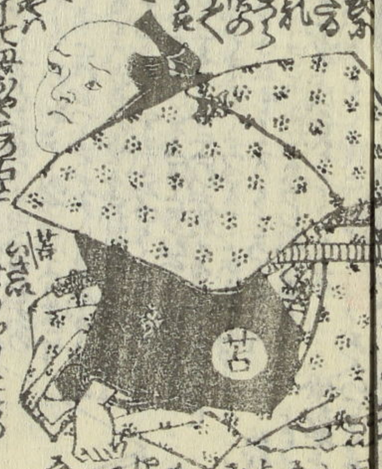
馬琴作

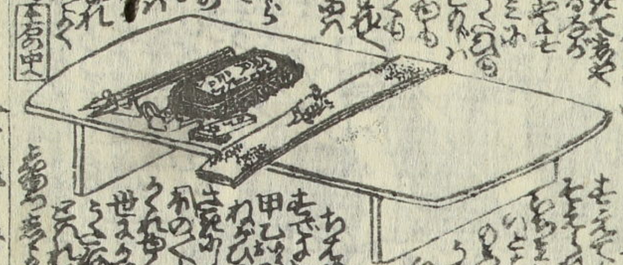
第四集下帙

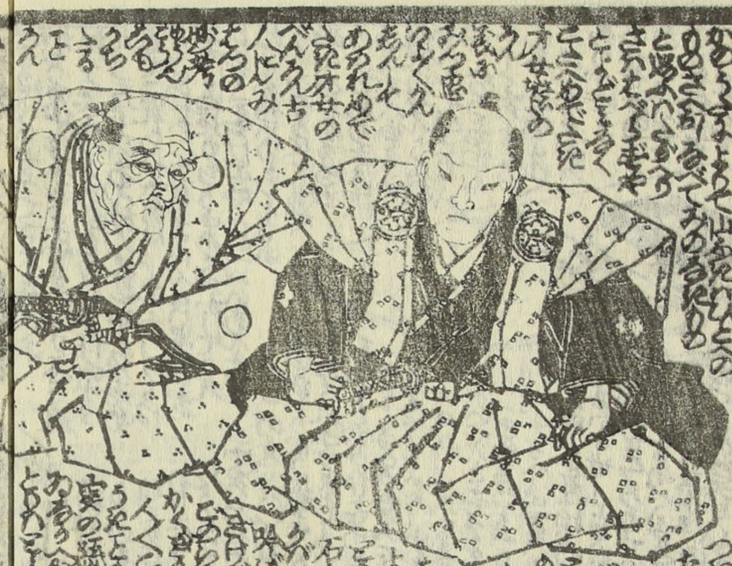
國貞画

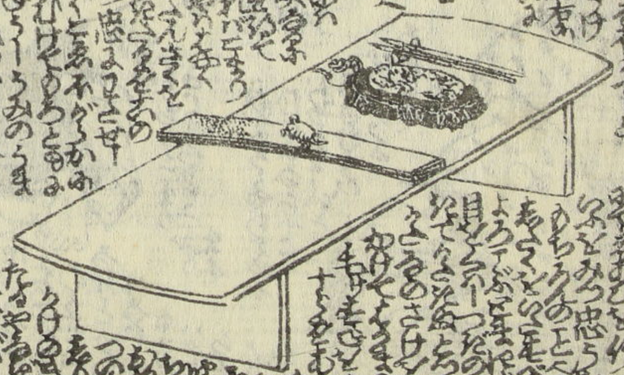
天保七年丙申春嗣出

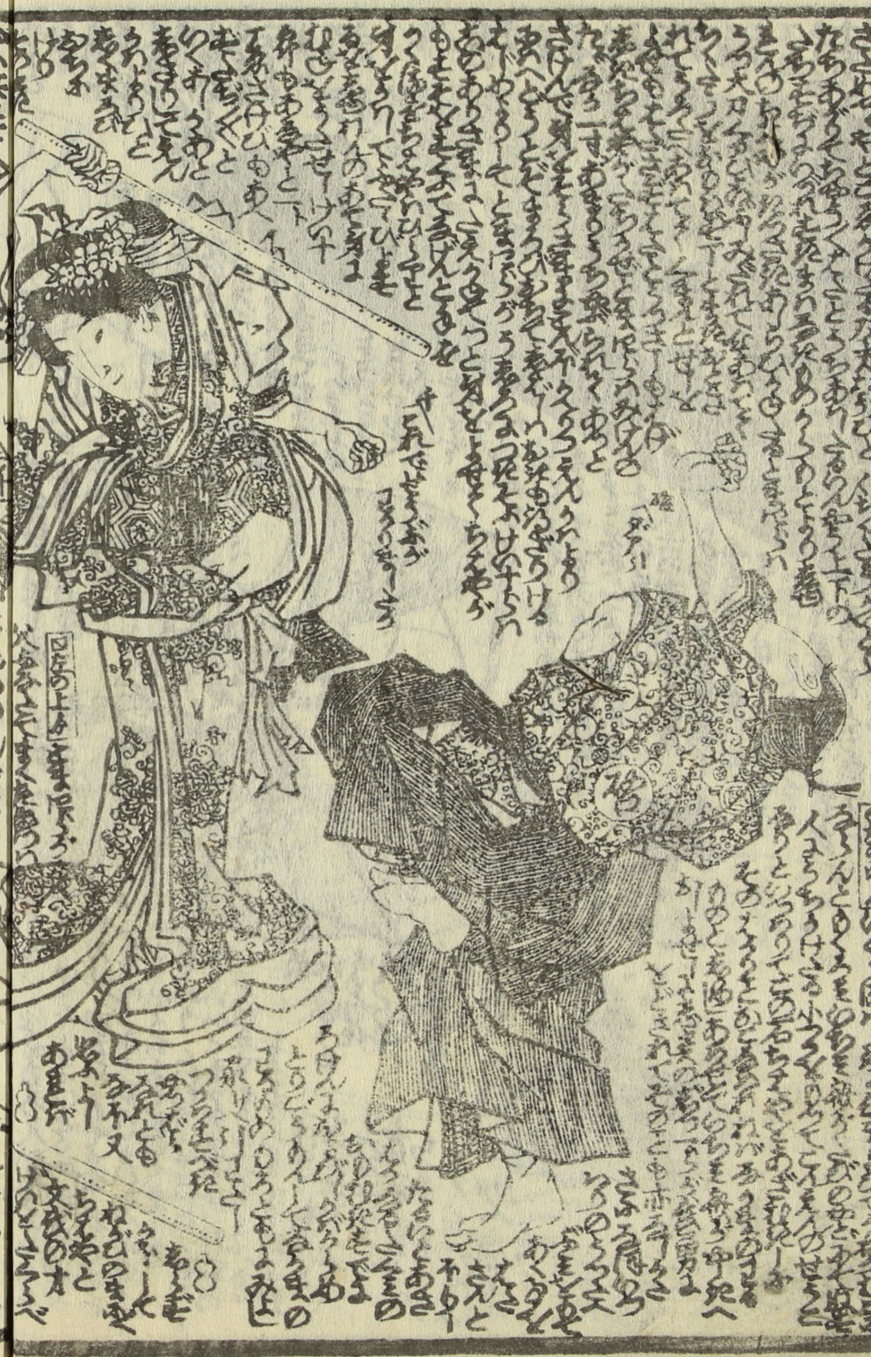
甘泉堂藉刊

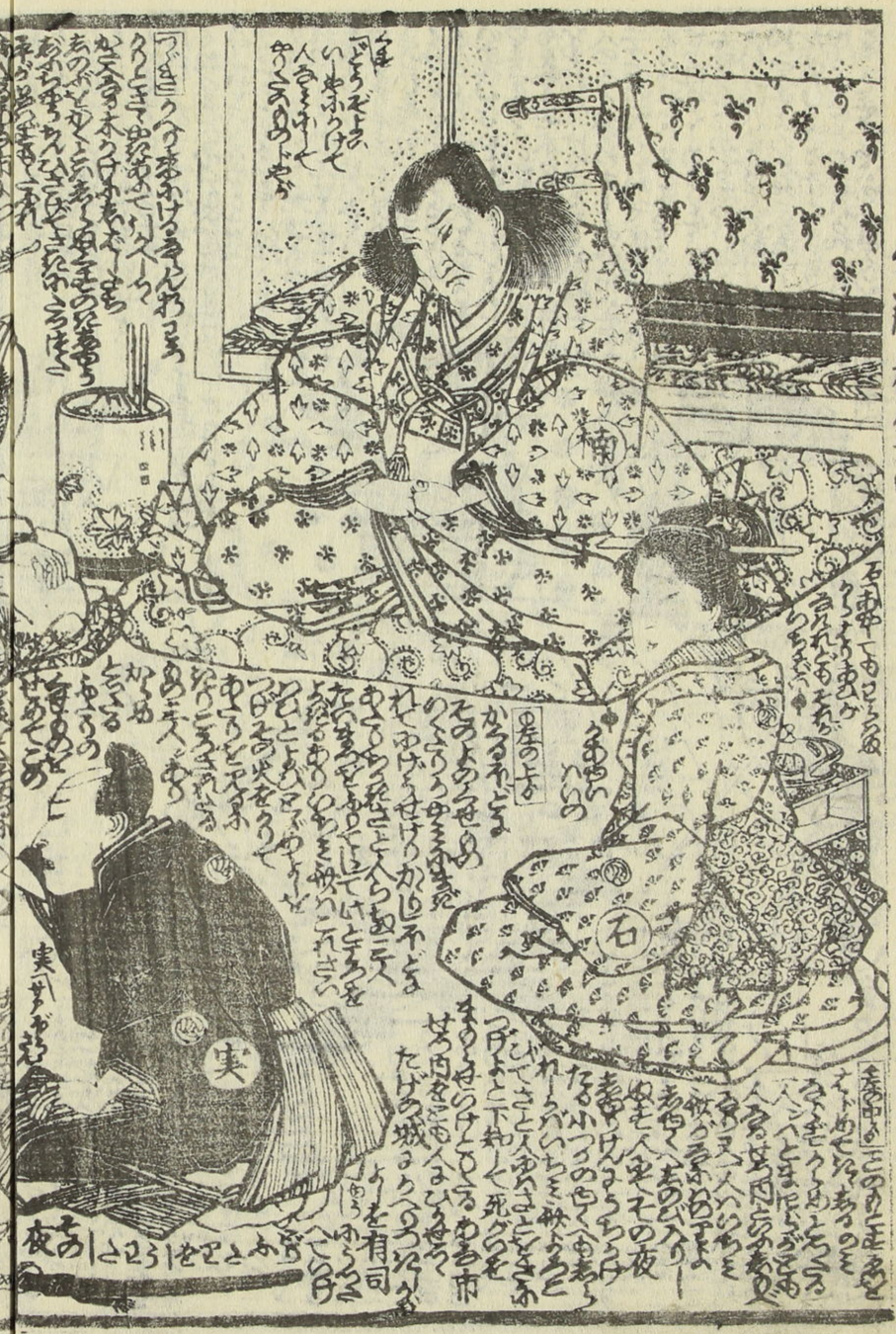


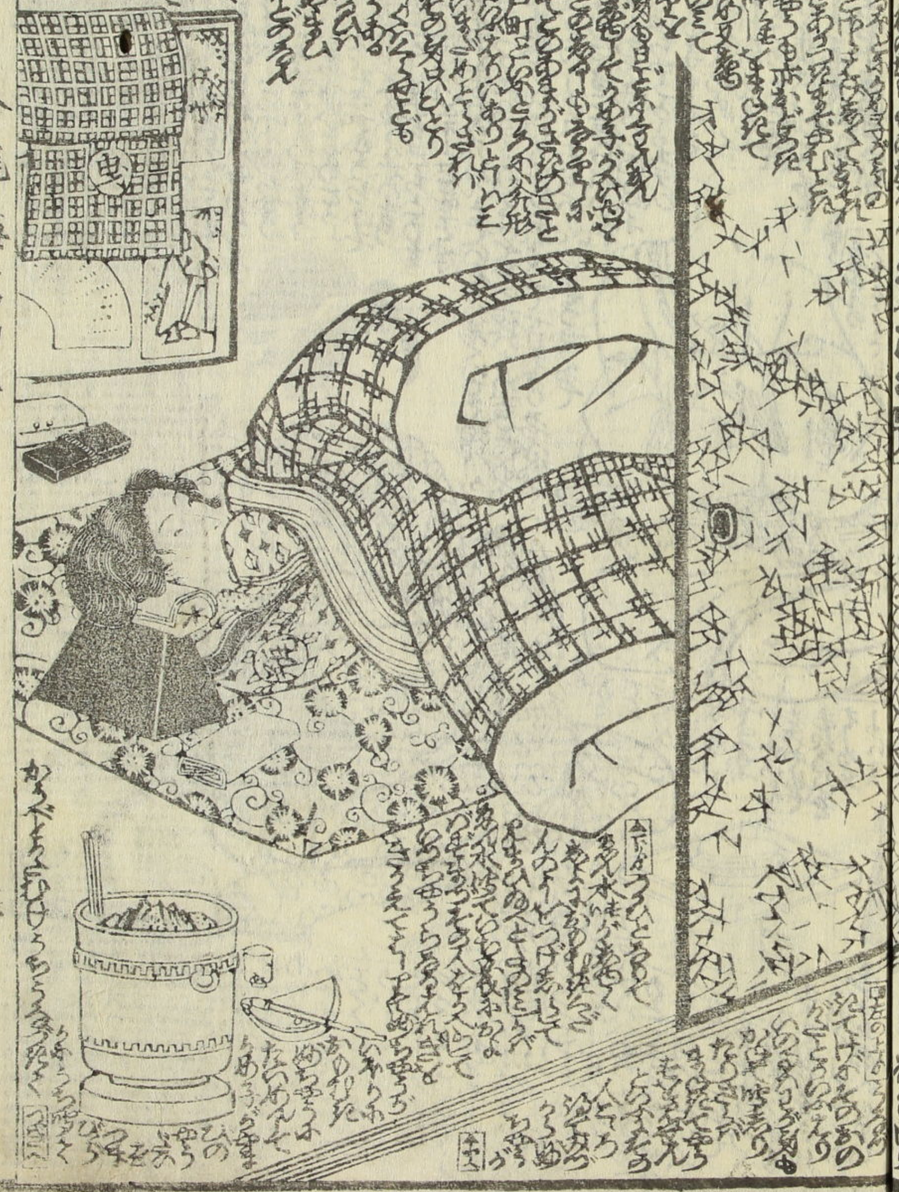






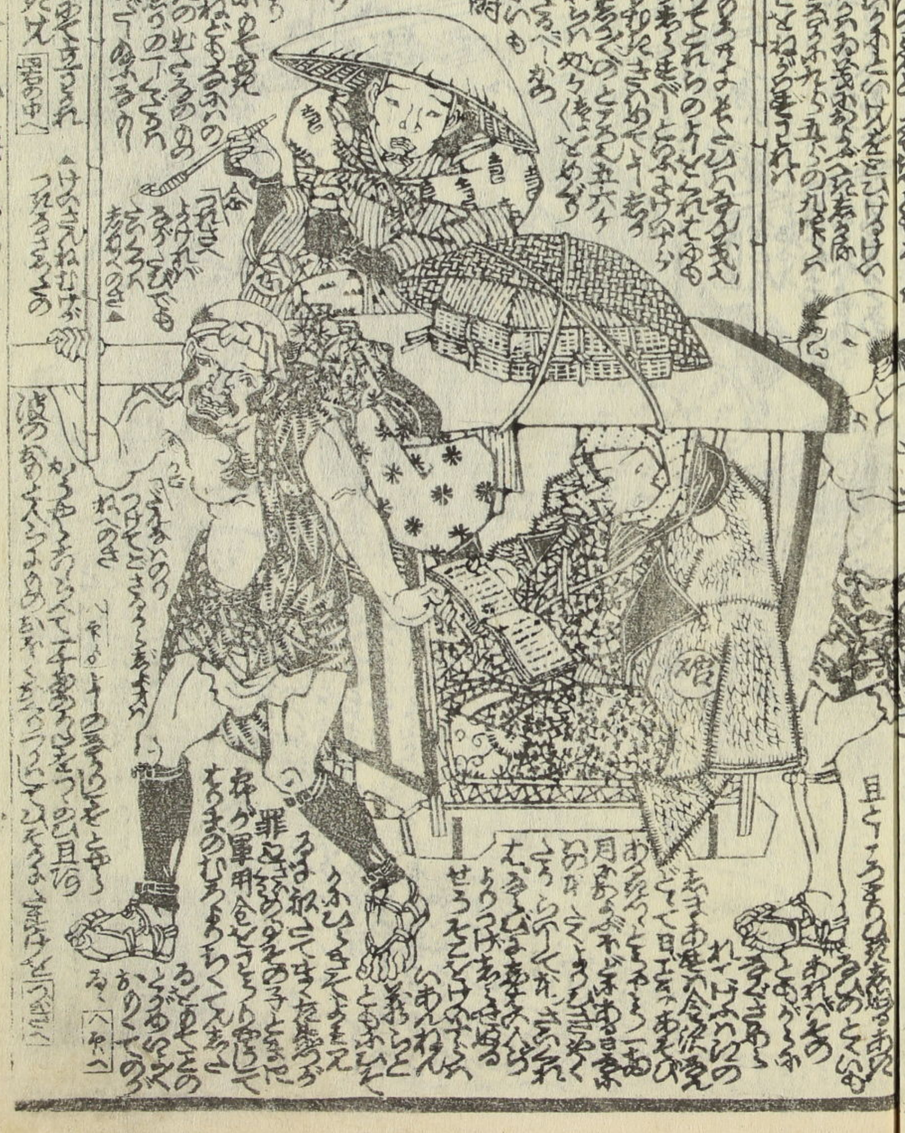


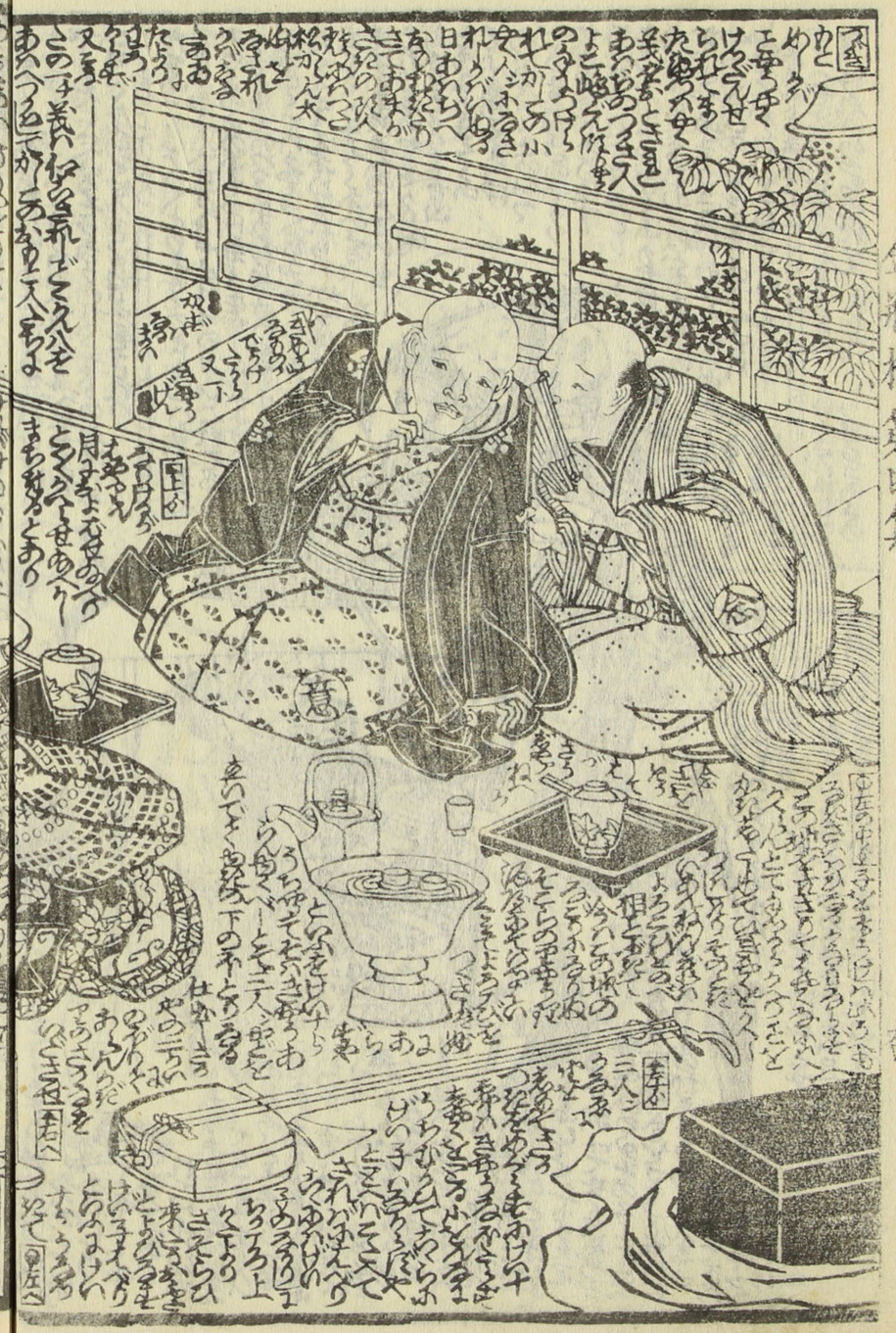


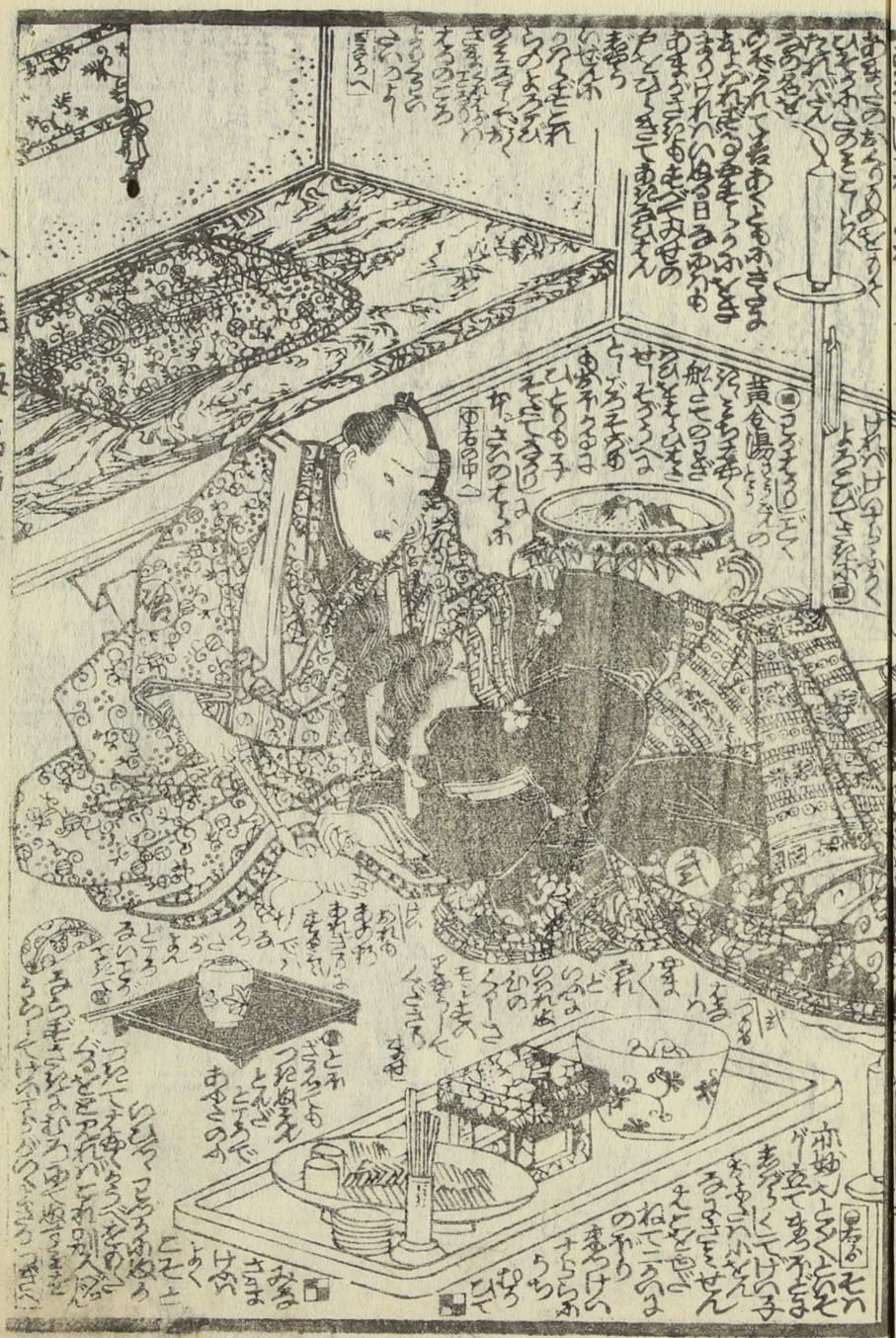


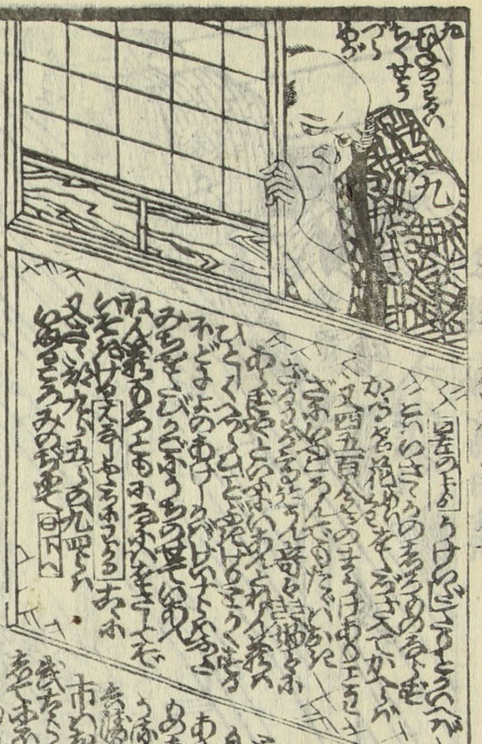
和合感応丸

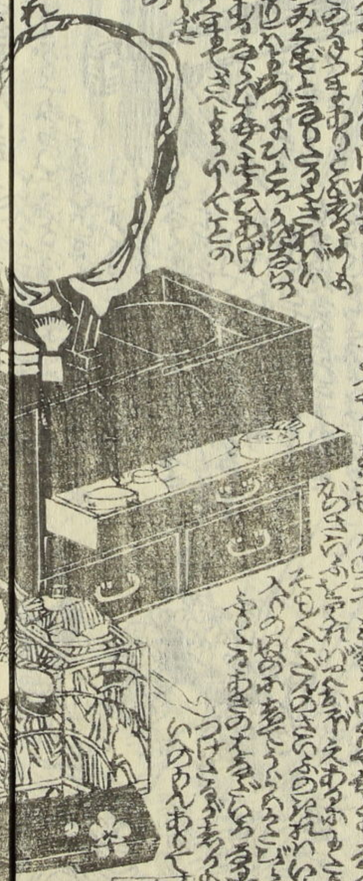
丸散丹圓
谷形典水
尾州前小戸町
家傳 和合病丸



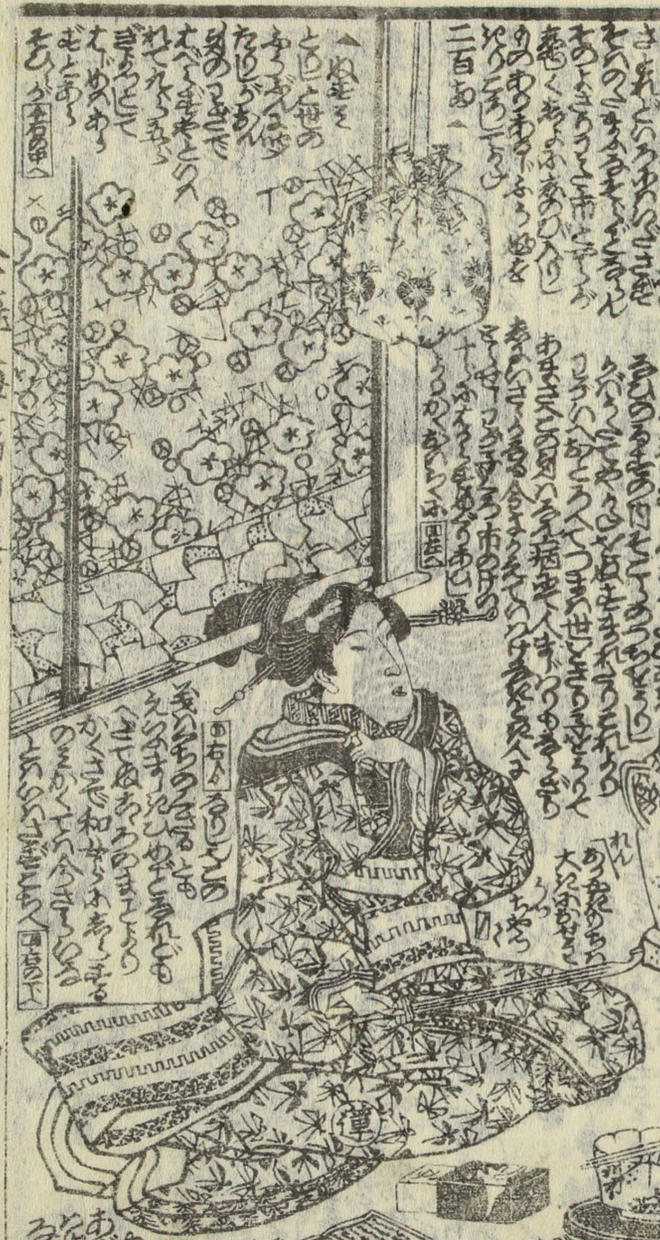








うらのあさいろ平ろひおそろさ市ぬーのきまろーぬ〳〵ぴらまそのこれるもんこそろふせろこありこうごー二八ぞろうのそうおのおひめをつくるなりみそ代ろ六十やろうとのおれる字いまめつけまろうよりぞやれわ男のまろうのぐ二百あいぬも人のおふうぞひとこれおまろさ三毋もおう人もうこと世をきろうおうろーろ」ごその男のまろも二百あ又ぐもろ二百あ男まろうぞやとありまおそのこのやろをとひとうくようえまだ小えんのうふおてやんありてみる代の字をうもうぐうこれ男代ろの代の字まそ女のぬまえんろうぐれろこうろ男のまろのろうとう今さようぐぶべうにそやおまこのとをさてびこうぐぬ入りぬいう猪とぶもおまりおりけいすぬーとこころるん中そろのおこりそとるけんん人をころてこのうぬとぬまろうべんぐぐぶべぐ



家傳神女湯 滋養の効能 一包代百銅

精製長許應丸 大包代三百銅 中包代二百五十銅 小包代一百銅

婦人の良薬 妙薬 一包六十四銅 半包三十二銅

製薬本家 神田明神下 滝澤氏

弘所 弘田町中橋下 なべよし丁 向 左ごさ氏

馬琴作 國貞画

海書 谷金川

湖月百人一首採庫

絵本名頭武者部類 前北斎筆 全

源氏絵尽 中本 全

桑玉百人一首

婆百人一首小倉錦

女用玉箒

大本一冊

蘭の先生著

女の男に笑うて物うるを笑ひたるもの

若ふたたびかふきぬ細かりあるお本綿のつるねとその深色ともそろそのふくろ

文字をあげこころぐくの

たんざく扇うちわのそろ

ふくめやう四季の折形むすび形ともかんをそろ

出して祖先とくらべ

鶴賀新内正本所

和泉屋市兵衛